2009 年 1 月 7 日

2008 年における中国の電力需給事情

中国電力企業聯合会の資料[1]によると、2008 年の中国の電力消費は 3.43 兆 kWh（日本の約 3 倍）で、前年比 5.23%の増加となったが、増加率は前年に比べ 9.57%低下した。部門別の電力消費を見てみると、第 1 次産業 879 億 kWh（電力総消費に占める比率 2.57%、対前年比増加率 1.85%。以下同）、第 2 次産業 2.59 兆 kWh（75.47%、3.83%）、第 3 次産業 3,498 億 kWh（10.21%、9.67%）、家庭部門は 4,035 億 kWh（11.77%、11.83%）である。なお、第 1 次、2 次産業の増加率は平均増加率を下回っている。

一方、供給側を見ると、年間発電量のうち、水力発電は 5,633 億 kWh（総発電量に占める比率は 16.41%、対前年比増加率 19.50%。以下同）、火力発電は 5.78 兆 kWh（80.95%、2.17%）、原子力発電は 684 億 kWh（1.99%、8.79%）、風力発電は 128 億 kWh（0.37%、126.79%）である。

また、2008 年末時点の全国の発電設備容量は 7.93 億 kW（日本の電気事業者の保有設備容量の約 3.4 倍）であり、前年より 10.34%増加した。うち、水力発電設備容量は 1.72 億 kW（発電設備総容量に占める比率は 21.64%、以下同）、前年比 15.68%増加した。火力発電設備容量は 6.01 億 kW（75.87%）、前年比 8.15%増。風力発電設備容量は 894 万 kW で前年比 111.48%増加。2008 年の新規増加した発電設備容量は 9,051 万 kW（2007 年の東京電力の設備容量 6,247 万 kW）、うち水力発電は 2,010 万 kW、火力発電は 6,575 万 kW、風力発電は 466 万 kW である。

他方、2008 年前半は、燃料、特に石炭の供給不足や送配電未整備などの問題によって、多くの地域で電力利用制限や停電が進められたが、後半になると、経済不況、過剰な設備導入、国際金融危機などの影響で電力需要が急減し、発電設備の稼働時間数は大幅に減少した。発電設備（6,000kW 以上の発電所）の年平均稼働時間は 4,677 時間であり（稼働率 53.4%）、前年より 337 時間減少した。設備の種類別では、水力発電設備は 3,621 時間で前年比 102 時間増加し、火力発電設備は 4,911 時間、前年より 427 時間減少した。原子力発電は 7,731 時間になり、46 時間減少した。

現在、世界経済の不況により、中国経済を支える輸出産業に対して大きな影響が出ている。海外からの注文が大きく減少し、沿海地域の民営企業の稼働率が悪化、労働者の解雇や企業の倒産が発生しているのである。以上の諸状況を見る限り、今年の電力需要の伸び率はさらに低減する可能性もあるだろう。電力事業の経営にとっては厳しい一年になる。

（エイジアム研究所 首席研究員　張 継偉）

Asiam Research Institute　http://www.asiam.co.jp/

---

1 中国電力企業聯合会「2008 年全国電力工業統計速報」